



ひろがれ
まわれ
一つ心に

MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第34回例会(3月22日)
平成25年3月29日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳デパート内
例 会 場 同上 TEL(651)1111(代)
FAX(653)5622
例 会 日 毎週全曜日12時30分～

会 長 藤村 文昭
幹 事 佐藤 重昭
会 報 福田 荘介
クラブ直通電話 TEL(653)5682

奉仕を通じて平和を Peace Through Service..... R1会長 田中作次



新入会員卓話

「道標 ～先達に感謝～」

金子新聞販売(株) 代表取締役
金子 真也 君

■沿革にふれて

弊社の沿革は、ホームページでも公開させて頂いておりますが、1887年(明治20年)に大本家が創業家となっております。その後、本家娘婿の二代目、その子である私の祖父と代を継ぎ、創業地の矢巾町徳田村から現在の紫波町日詰に移転し現在に至っておりますが、その頃(昭和10年頃)から、新聞業界の成長期が始まったと言えると思います。



【写真1】

【写真1】 昭和12年頃の店舗です。「二二六事件画報」や、幻のオリンピックとなった、「次回オリンピック東京開催決定」の手書きポスターもあります。

【写真2】 昭和12年で4月6日の電報ですが、「神風4時25分ハノイに着いた」とあります。これは祖父が満州で日本軍の記者を手伝っていた経験から、地方岩手盛岡への情報伝達役となっていた資料、と親父から聞いています。



【写真2】

【写真3】 小学5年生頃で、夕刊配達を終えた後、友人宅前で撮ったものだと思います。



【写真3】

【写真4】 昭和60年3月7日の朝日新聞記事写真は、朝日新聞阪神支局で凶弾に倒れた、「小尻知博記者」に取材して頂いて、地域版に掲載して頂いたものです。高校2年生から主催していた吹奏楽の仲間を集めた吹奏族というイベント告知記事です。私は岩手高校の吹奏楽部で活動しておりましたので、男子校ゆえに出会いを求めていたと思います。ちなみに、古山さんは先輩であります。



■与えてもらった人生を振り返ると

私は、4歳ごろから家の周りの新聞配達を始めたのはじまり、徐々に軒数も親父に増やされ、4年生頃には集金業務も預けられました。後に親父が言っていました、「実は支払いの良くないお客さんの所にお前を行かせたんだ。働いてくれる人が少なかったこともあるけど、子供のお前が集金に行くと、子供ゆえに支払ってくれると思ったんだ」と言われたことを憶えています。

いつも朝刊を配達して登校し、友達とも遊べず帰ってすぐ夕刊配達でした。少年野球やサッカーチームの友人を羨ましく思っていました。中学になっても同様でした。高校では部活が全国大会に出場する部でしたのでハードでしたが、朝刊配達だけは続けて学校に通っていました。休めたのは、小中高の修学旅行の時と、高校の部活の大会の時だけでした。

そんな中でも、16歳になると原付免許を親父は取らせてくれました。18歳になると普通免許を取らせてくれました。が、その分、配達軒数は思いっきり増えました。今の高校生では不可能だと思いますが、高校生時代に原付バイクや車の運転の訓練になったと思います。

遊び盛りの大学生時代も、休みに帰ってくると、配達仕事の手伝いが絶対でした。若さゆえだと思いますが、この頃から自立したい、家業は継がないなどと勝手に思い家業を断ってリコー光学に入社しました。開発課に配属されたのですが、7年勤めた頃、同期の高校卒の仲間が、中国に行くか辞めるかの選択をせまられており、私はノルマの Patent 申請がエリート後輩に追越され、居場所に悩み、退職を決意しそして、頭を下げて親父の門をたたいて、現在に至っております。

■家業に就いても

家業ではありますが、そのころ法人化になっており、少々の経験はあっても就業規則に則って新入社員として一から早朝業務や訪問営業など親父にしごかれました。

また、平成7年頃は業界ではまだ折込広告が多かったので、印刷会社を立ち上げ、自社でオフセット枚葉印刷で折込広告を作って新聞折り込みをしておりましたので、その印刷機のオペレーター業務を独学でおぼえることをしていました。

現在は単色印刷機を処分せずに残してありますが、当時はB4菊四版のオフセット4色機も設備し、版焼き、色合わせ・印刷トンボ合わせやインクの照り具合、水汚れなどの調整に苦労しながら、印刷機械を動かしておりました。

そして平成9年に縁があり私も結婚でき、同時期に新店舗を矢巾町に建設し、新店舗での業務を任せられました。矢巾は不來方高校しか無い様な地域が、あつという間に住宅地に変貌し、地図の整理にはじまり業務が嬉しい悲鳴の毎日という超多忙時期でもありながら、盛岡青年会議所（盛岡JC）に入会（佐藤重昭さんが理事長の年）してから、その活動にはまり過ぎ、“矢巾は大丈夫か”と親父に怒られてばかりが続きしました。

■先達に感謝

今思えば、親父には心配ばかりかけましたが、私のはまった、その盛岡JCでも多くの学びがありました。多くの人と関わる中で、『こうしなければならぬ・こうすると駄目なんだ、こういう人になってみたい・こういう人になったらいけない』、ということを社会の縮図として学びました。藤村会長も盛岡JCの大先輩であり、いまだに多くを学んでおります。

私の父が5年前脳梗塞で倒れた時、真っ先に頭に浮かんだのは、盛岡JCのある例会で、樋山さんが「事業継承は早ければ早い方がいい」ということを話していたことでした。

虎の衣を借るじゃないですが、責任をすべて代表取締役である親父になすりつけていた頃の自分から卒業して、本当に仕事をする難しさや責任の重さや孤独な立場を、お腹一杯以上に今も経験できておりまして、仕事への意識・経営者の心得・人生哲学など多くの先達が盛岡JCにも居られたことに感謝しております。

そして今、盛岡ロータリークラブに入会させて頂き、再び多くの先達である方々から学ぶ機会を頂戴いたしました。業界でも販売店で若

僧であった自分が中堅世代になり、メーカーである新聞発行本社の販売店担当も自分より若い者が担当者となり、会社でも親父が居ないと、わがままになる自分があります。甘えるわけではありませんが、叱ってくれる人生の先輩が自分の周りに今居ることは、とてもありがたいことだと思っております。

■道標

今思えば、4歳から親父にさせられてきたことが無ければ、今、会社の代表とは恥ずかしくて人前では言えなかったと思います。

同族経営には賛否はありますが、そんな中で事業継承は、中小企業では永遠の課題であり人生哲学だと思います。

会社経営者として思うのですが、矢巾町から当時の都会であった日詰郡山駅に店舗を構えた祖父が創業期、事業拡大してきた父が成長期、私の今が衰退期と思っております。

大震災のあとBS放送で見たと思うのですが、銀座の高級鮎店「久兵衛」の三代目に着目した特集がありました。初代は根っからの職人で、二代目の現社長は企業拡大を目指してきたと思います。三代目のあなたは何を目指しますか、との問いがあり、その答えに三代目は、「私は、従業員と強いチームの信頼関係を作り上げることを目指します。」と話していました。私も同じような思いで努めております。

色々なことを経ても、親父の背中が道標でした。ここまでの道のりには多くの先達の教えがありました。私も、息子や後輩の道標となっているかわかりませんが、これまでに感謝して、第二創業期を迎えられるように、これからも頑張っていきたいと思っております。

例会報告

第34回例会
平成25年3月22日(金)

- 於 川徳 12時30分 開会点鐘
- ・司会 藤村文昭会長
- ・ソング 手に手つないで

- ・ビジター 守屋和彦さん(盛岡西北R.C.)。
- ・ゲスト 神馬菜穂子さん(次年度長期交換留学生(ホストクラブ盛岡西北RC))。
- ・会長報告 藤村文昭会長
- ・幹事報告 佐藤重昭幹事
終了後臨時理事会開催

- メーキャップ
花巻R.C.=伴君。盛岡北R.C.=白石君。盛岡東R.C.=駒木君。盛岡西北R.C.=村井(良)君。クラブ委員会=千葉・古山・平井・星・川村(登)・菊池・民部田・坂本・田中・藤田君。



長期交換留学生 神馬菜穂子さん出発のご挨拶頑張ってください(派遣先：フランス)



〈例会場配膳スタッフ退職者〉左から中野千恵子さん・鎌田輝子さん・上村良子さん
永い間ありがとうございました。

※訂正とお詫び…第33回例会(3月15日)号において、例会の回数を「34回例会」と誤って記載いたしました。訂正の上、深くお詫び申し上げます。

出席報告 □ 会員数 /66 名 □ 出席数 /32 名 □ 出席率 /57.38% □ 前々回修正出席率 /85%

プログラムの
お知らせ

- ・3月29日(金) ゲスト卓話 真山重博 様
- ・4月 5日(金) 新入会員卓話 高柳一郎 会員
- 12日(金) 会員卓話 熊谷昭三 会員
- 19日(金) ゲスト卓話 尾形さゆり様・佐藤久美子様
- 25日(木) 観桜会(26日例会変更)

- 本号編集担当 / 加藤 正幸
- 次号編集担当 / 川村 宗生